



シラバス参照

タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「経済経営学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	根建 晶寛		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	経:K
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術	20 %
		本質を見極めるための教養と学際性	20 %
		協働的な問題探究	30 %
		社会の改善につなげる創造性	20 %
		市民としての主体的態度	10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	この科目は、学習集団の中での協働的な活動を通して、高校と大学の学び方の違いを理解するとともに(学びの質的転換)、大学という学習環境の活用方法やアカデミック・ライティング、プレゼンテーション等の基本的・汎用的アカデミック・スキルズを身につけることを目的としています。		
単位認定基準	a. 学習集団の中で協働的に課題に取り組むことができる。 b. 設定された(した)テーマに関する文献を読み、要約することができる。 c. 最低限の形式を守ったレジュメやレポートを作成することができる。 d. 設定された(した)テーマについて他者に伝えることができる。		
授業計画	<p>通年で同じ教員が教養演習を担当するため、前期の内容や学生さんの様子を見て、後期に何を行うか相談しながら決定しますが、予定としては下記の通りになります。前期で学んだ知識をより深めていくことを主な目的とします。司会者と発表者を毎回変えることで、立ち位置が変わった時に何を必要があるか学ぶことができるでしょう。またそれ以外にも前期以上に世の中に起きている雑誌記事や将来に備えた情報提供をする予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 前期のプレゼンテーションに関する復習・改めてプレゼンテーションとは 3. 実際にプレゼンテーションを作成する 4. 社会人のプレゼンテーションの事例を見つめる 5. マクロ経済に関する資料収集の方法 6. ミクロ経済に関する資料収集の方法 7. 国際関連に関する資料収集の方法 8. 地域関連に関する資料収集の方法 9. 実際の企業見学に向けたおおまかな準備 10. 実際の企業見学に向けた細かな準備 11. 実際の企業経営の事例を用いたディスカッション(製薬業界のケース) 12. 実際の企業経営の事例を用いたディスカッション(金融業界のケース) 13. 実際の企業経営の事例を用いたディスカッション(IT業界のケース) 14. 最終レポート課題の提示 15. 今後の学生生活に向けて <p>なお、受講生から希望があれば、時折、演習での交流会を行うことを考えております。</p>		

教材・教科書	河野 哲也『レポート・論文の書き方入門』第4版, 慶応義塾大学出版会, 2018年 飯田 英明『プレゼンに勝つ図解の技術』第2版, 日本経済新聞出版社, 2012年
参考図書	演習・オフィスアワー時にご質問頂ければ適宜紹介します。時折、新聞記事などを配布予定です。
参考URL	特になし。
授業以外の学習	時折、個人課題及びグループのプレゼンテーション課題を与えますので、資料収集、事前の打ち合わせなどが必要になります。また、常日頃、興味ある雑誌記事や新聞記事の情報収集を行うことを意識しながら進むと良いでしょう。
成績評価の方法	a. グループワーク等への参加・貢献状況。 b. レジュメの形式・内容。 c. プレゼンテーションの形式・内容。 d. レポートの形式・内容。 ただし、b～dについて、本科目では「内容」よりも、一般的または指定された形式を守れているかを基本的な評価の観点とする。
成績評価の基準	S. 単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた(90～100点) A. 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた(80～89点) B. 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた(70～79点) C. 単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた(60～69点) F. 単位認定基準の学習成果をあげられなかった(～59点)
オフィスアワー	講義後に適宜対応します。もしくは、事前にメールを頂ければ予定調整いたします。
授業改善・工夫	レポート・論文やプレゼンテーションに関する良例を学生さんに示すなどの工夫をこらす予定です。
留意点・注意事項	講義の大まかな内容に変更はありませんが、状況に応じて、順番を入れ替える可能性があります。
教員の実務経験の有無	前職の金融機関における業務経験及び非常勤先の会計専門職大学院での論文指導講座の経験をふまえて問題探求セミナーを担当する予定です。

